

2005WOC で初めてルーマニアがリーを組める迄

# WOC へ世界の選手を招致する！

八尋弓枝

平均月収 2 万円弱のルーマニアにとって、愛知世界選手権は哀しい話題だった。彼らの年収に相当する渡航費・参加費・滞在費は過去いずれの WOC に比べても最高額。

だけど、彼らにとって一生のうちで参加できる WOC があるとすれば、それは友人である私がいる愛知世界選手権しか有り得ないっ！

・・・というルーマニア選手招致まで 1 年間の記録です。

海外遠征の為に支援金を募る機会の多い日本人選手にも、参考になればと思います。

## 若返り治療のための

### 国立研究所アナ・アスラン

ルーマニアの国家プロジェクト、アンチエイジング化粧品のジェロヴィタルを扱う瀬戸さんの会社と契約を結んだ私は、実際にジェロヴィタルを開発し、若返り治療も行っているという国立研究所を訪ねてみることにした。

研究所の正式名は以下の通り。

“ Institutul National de Gerontologie si Geriatrie "Ana·Aslan" sectia clinica Otopeni ”

「老化に関する国立研究所 “アナ・アスラン” 医療セクション」といったところか。オトペニ空港のすぐ傍にある。



研究所入口の看板



訪ねた日、初めての大雪が降った。

ブカレストの中心部からバスを乗り継ぎ更に 30 分程歩いてやっと到着した。ルーマニア到着以来初めて降ったボタ雪がべちょべちょと足元で溶け、嫌な

冷たさが気分も暗くする。

連れてきてくれたエミールは「ただの病院だよ」と言ってなんでそんなところへ行きたがるのかと明らかに面倒臭がっている。国家プロジェクトで若返り治療をやっているという機関が世の中に存在するという稀有な事実、エミールは気づいていないのだ。

その事実こそが、アンチエイジングを謳うほかの商品とジェロヴィタルの一線を引いているというのに。



国立研究所の前を歩くエミールの後姿(右)。左手の壁の向こうに研究所兼病院がある。

広い敷地に入ると、決して大きくは見えない明るいベージュ色をした建物が二棟並んでいるのが見えた。そのうちの二棟は事務所、もう一棟の方が研究所らしい。

事務所らしき建物に入り、ゼネラルマネジャーの札を付けたドアをノックした。応える女性の声に中に入ると書類に囲まれた大きな机に 40 歳位の女性が座っている。目が大きなルーマニア美人だ。

エミールが今回訪ねた用件を伝えると彼女はドクターに直接会うようにと回答した。そして、ルーマニア語で書かれたこの研究所の説明書をくれた。

そこには、若返り治療のあらゆるプランが書かれていた。この研究所に宿泊しながら受けるようで、期間は 3 日間や 1 週間、二週間というように目的に応じていろいろある。ジェロヴィタルを使った治療法が書いてあり、価格もユーロで紹介されている。パンフレットとは呼べないワープロ打ちされた大変事務的な書類といった趣の説明書だ。

価格は 2 週間のものが 450 ~ 1700 ユーロ。プランに応じて価格が違う。残念なことにルーマニア語は分からないが、国立研究所がジェロヴィタルを用いた若返り治療を行っているという事実はよく分かった。

ドクターに会ってもいいと言われて私は思わぬ幸運に興奮した。聞きたいことはいっぱいあるのだ。

たとえば・・・

この研究所にハリウッドからも多くの俳優が若返り治療に来ているという噂がある。それは本当なのか？

日本人も来ているのか？ 人数は？

日本で宣伝活動することに対し、私にお金を払う気はないか？ など。

実際に日本人が来た場合、治療室の清潔感などが問題になる。その点についても実際に見て確かめてみたかった。

## 研究所の内部

ドクターの部屋の前には先客がいた。いずれも記者やカメラマンで雑誌や新聞用の取材だと言う。みな既に 1 時間以上待っているらしい。ちょっと嫌な予感・・・時折通る他の医者や看護師、患者がチラチラ私達を見ている・・・

予感的中。待てども待てども私の順番は廻ってこない。エミールもイライラしてきている。



ドクターの部屋



研究所の中で展示されているジェロヴィタル



病院内部。みんな待ちくたびれ。

2 時間近く待ったが結局会わずに帰った。残念だったが・・・。仕方がない。

## ルーマニアの オリエンテーリング連盟へ

ルーマニア滞在中に、もう一つ、訪ねたい場所があった。ルーマニアオリエンテーリングの事務局 (フエレーション) だ。2005WOC への選手招致については、事務局の人も承知してもらわなければならないのかの確認もしておきたい。

翌月に控えたルーマニア・スキーオリエンテーリングジュニア選手権の責任者もしているエミールは、ちょうどスキー事務局のほうとも話があると行って、気軽に連れて行ってくれた。

選手権のコース設定に多くのミスが発見したエミールは、若干不機嫌な表情でオリエンテーリング事務局のドアを叩いた。中には2人のおじさんがいて、なにかしらをエミールと声高に話し始めた。…険悪な雰囲気だ…。

結論としては、私がどうルーマニア選手を援助しようが自由にしてOKということ、WOC 参加に関しては事務局の負担は一切行えないということだった。

予想通りのことだったし、顔見せができただけでも良かったと思いきや事務局を出るとエミールがまたプリプリしている。事務局にいた1人が「だれか選手が行くんならオレも行こうかなあ。事務局の金で」と言ったらしいのだ。非常識な奴だなア!と私も腹が立ったが、他の国の話だし関係ない。しかし、事務局がそんな態度では、ルーマニアでOLをするのも楽ではない。実際、エミールも4歳になる娘にはOLはさせずに新体操をさせると言っている。OLは衰退スポーツで、金にならないからだ。日本と状況は同じかな?

## ジェロヴィタルを買って、 いざ日本へ!

三週間におよぶルーマニア滞在中も終りが近づいた。瀬戸さんの会社との契約も終わり、ジェロヴィタルのことも全て調べた。後は仕入れるだけだ。



<http://www.keyvital.com/>

瀬戸さんの会社名はキーヴィタル。ジェロヴィタルが割安で買えます

さて、いくつ仕入れて帰ればいいのか? …答は決まっている。一品目あたり24個以下だ。関税の問題なの

だ。しかし、女性だとお分かりになると思うが化粧品というのは様々な種類がある。ジェロヴィタルで言えば、クレンジング、ローション、デイクリーム、ナイトクリーム、アイクリーム、リンクルクリーム、マスク。ヘアローションからボディクリームまでである。おまけにレギュラーとデラックスという2ブランドなのだ。一体、どれが売りやすいだろう?

そして、何をどの値段で販売すれば1人以上の選手の渡航費・参加費・宿泊費が出るだろう? 四苦八苦で皮算用した上で、意を決して、たんまり仕入れた。実は他にも滞在中に購入していたルーマニアの民芸品があり、荷物量はすさまじいものになっていた。エミールは体重計を持ち出し、量り、空港で絶対トラブルよと予言した。(そしてその予言は的中したっ!)

帰国の朝、信じられないほどの大雪が降った。果たして飛行機は飛ぶのだろうか? という不安と、どんよりした空の色が私の気持ちも暗くした。「こんなに沢山買って帰って、売れなかったらどうしよう?」……

どんなに良い物でも、売れるルートが無ければ絶対売れない。正直言って、今の私にはそんなルートは無い。帰国したら、そのルート作りをゼロから始めなくてはならない。私には以前の仕事で営業経験があるが、その大変さは身に染みてよお~く知っている。「ツライだろうな…」。陰鬱とした思いを抱えたまま、空港へ向かった。



私の気分が反して楽しげに雪かきをする人達

私の不安をよそに空港は至って普通に動いており、無事飛行機にも乗れた。荷物超過でトラブったが、まあそれも済んだ。テロが原因と思われる厳重な安全チェックにも閉口したが、それも許そう。とにかく私の頭は帰国後の「販売ルート作り」でいっぱいだったのだ!

## 販売じゃありません。寄付です

「販売」と言ったが、厳密にいうとこれは販売ではない。あくまでもルーマニア選手招致を目的とする善意の寄

付活動なのだ。寄付目的のお金をもらう。その金額に応じてルーマニアグッズを寄付主にあげるのだ。

これは結構重要なポイント…まあ、しかし、この紙面では単純に売買上の表現を使うのでその点はご了承ください。



持ち帰ったジェロヴィタル。どう売ろう…?

## 売れる「物語」づくり

営業経験のある人ならご存知のように、モノを売るにはマーケティングが肝腎だ。「だれに、いくらで、どう」売る? 「だれに」で言えば女性でそれも30代以降。国際協力関係に興味を持っている人が最高だろう。「いくら」で言えば一つ3000円位かな。手は届くが決して安物ではない値段。…「どう」売る? …これが問題だった。

ジェロヴィタルは自分も使ってみて、大変良い商品という自信がある。でもいきなり「いい商品だから買って下さい」では見向きもされないだろう。

「ルーマニア選手への援助になる」ということを伝えるのはもちろんだが、そもそもルーマニアに興味を持っている人なんていないし、オリエンテーリングの世界大会なんてどうでもいいと思う人がほとんどのはず。そうなるので、まず、ルーマニアに対する興味喚起を出発点にして、「彼らに対しなにかしてやりたい」という思いを作り、そこにジェロヴィタルを登場させるという仕掛けを描かなければならない。

茨城県にメサフレンドシップ(メサ)というボランティア団体がある。メンバーは国際的なことに興味がある中高年男女が中心。私はそこで3月に講演をさせてもらうことにした。お題目は「ルーマニア事情を、身近な視点から報告する」。その報告の場で大掛かりな販売活動を行おうと決めたのである。

さあ、どうやって観客に遠い国ルーマニアに対して興味喚起させ「なにかしてあげたい」と思ってもらうのか。そして、与えられた1時間半の中で分かりやすく、どう描くのか。一ヶ月程

の準備期間の中で、私は頭をひねった。

出来上がった流れはこうだ。「ルーマニアと私自身の接点を結びオリエンテーリングの話 ルーマニアのオリエンテーリング仲間との生活の話 ルーマニアが抱える様々な社会問題の話 愛知世界選手権の話 援助の話」。事前に会話を交わしたことのある「私」はメサの人にとって身近なはず。その身近な「私」との視点からルーマニアを語るにより、興味を促そうというわけだ。皆さんだって、いきなり、「ルーマニアはこんな国」と一般的なことを知らない人から言われても、フーン、ていう感じでしょう？ でも、好意を持っている人から言われれば、ちょっとは聞いてみようかなと思うもの。その心構えが大事なのだ。

狙いは当たって結果は上々。講演中、画面に映し出される映像に30名近い観客は興味津津。「普通じゃ知れない話が聞けた」と面白がっていた。ジェロヴィタルの話をする、女性を中心に商品に殺到。さばくのが大変な位だった。そして、私は心から納得した。

“効果的な販売には「物語」が必要”



講演には宗教や文化の話も

## 売り先の開拓

メサでの講演に勢いづいた私は、茨城県の代議士狩野安氏にも協力をお願いする機会を得た。これは偶然にも私が所属するOLクラブ「ときわ走林会」の上野山さんが、県OL協会会長は狩野氏であると教えてくれたことに発する。

調べてみると、狩野代議士は地元水戸の保護司婦人会名誉会長である。その会合の場で講演の機会を持たせてもらうことをお願いすることにした。それはあっさりとして実現し、再び成功。

ほか、地元でチャリティイベントがあると聞けばコーナーを設けてもらってジェロヴィタルの紹介をしたり、OL関連では東大大会でも販売所を設けた。所属しているMLに情報を流したり、宮城島さんの紹介でO-newsに紹介コーナーを設けてもらったりもした。買ってくれた方、本当にありがとう。

結果としては講演を通じた販売が一

番効果があり、リピートも生み、順調に資金がたまっていった。5月段階では、20万円以上になっており、選手一人を招致することは十分に実現の範囲内になっていた。あとは何人にまで増やせるかというのが問題だった。

## 初の女子リレーを組みたい！

さてさて。

そもそも、一人の選手を愛知世界選手権に招致するのにいくらかかるということだが、答は最低でもおおよそ28万円。詳細は凡そ以下の通り。

- ・渡航費（名古屋まで） 約14万円
- ・WOC参加費 5.3万円
- ・宿費（1日4500円×10日）4.5万円

以上で合計23.8万円。これに国内交通費（ざっくり2万円?）、食事代（ざっくり2万円?）を加えると、28万円近くはかかる計算だ。

航空券の手配を考えると、5月中には人数の確定を行う必要があった。手元には20万円ちょっと。もし一人だけの招致なら、ジェロヴィタルの売上で十分まかなえる予測が立つ。安全策で1人にするか？ でも、お金をけちって、後に余裕を残す意味は全く無かった。でも私の持ち出しが多すぎるのは出るのちょっと変。ここは思い切って2人を呼ぶことに、心を決めた。

もともと、赤字になったって、本来の目的はルーマニア選手を招致したい！日本で会えたらきっと楽しいだろう！という道楽気分から発した事なんだから。そのためにはあと30万円程必要になるが、それはなんとかしよう！

そんなとき、愛知世界選手権に自費参加するというルーマニア選手存在を伝える連絡が、名古屋の落合さんから入った。

その名は、チュシャ・フェイ。WOCの常連で世界ランキング32位だとか。それから、カナダに住んでいるヴァル・ドゥカ。いずれも女性で私の知りうる限り、世界選手権で二人以上の同性が揃うのは初めてである。つまり、あと一人女性を加われば、初のリレーが組めるではないか。ふつふつとした喜びが胸を突付いた。

## お金の準備だけが

### 招致じゃない

招致選手の選定は、ルーマニアオリエンテーリング連盟のメンバーでもあるエミールに任せることにした。とにかくこれから、資金集めの継続に加え

て、生まれて初めての海外送金や日本大使館へのビザ申請（招聘）をしなくてはならないのだ。



祖国の貧しさを嫌い、海外で仕事を見つけ豊かな生活を手に入れるラッキーなルーマニア人がある。チュシャとフェイもその例だ。ルーマニア滞在中に出会ったミリタリスクールの子供達にもその希望を持つ子は多い。

また、愛知世界選手権参加に関し、正確にいくら必要なのか、もっと安くできる方策はないのか、など細かいところを詰める必要もあった（結果的に、運営側の混乱もあり、愛知世界選手権参加に関しいくらが必要なのかを事前に正確に知ることは不可能だった）。

初めてのことばかりだったことに加えて、雑務はもともと苦手な私。加えて招致する2人の選手のことだけではなく、ルーマニアチーム全体の対応もなんとなく行うことになり、気分が落ち込み「こんなはずじゃなかった・・・」

一方で、ジェロヴィタル販売やキーヴィタル社からの報酬、魅惑のチケット・物品販売、心ある寄付等で、順調に“錬金術”は進んだ。うん、きっと2人の招致という計算は正解に違いない！（ご協力いただいた方、本当にありがとう！！）

そして2005年5月24日（金）、最後の大バクチを打とうと、私は衆議院議員会館を訪ねることになる。

そこで政治家の力を使って、お金を引き出そうとした私の顛末は・・・？

詳しい続きは次号（最終回）で！



セントレパ空港の到着口。ここで早く選手に会いたい！

八尋 弓枝 yumieyahi ro@yahoo.co.jp  
\*当ドキュメントに登場する人物は実在の人物と異なっているケースがあります。